**第２学年3組　国語科学習指導案**

1. 単元名・教材名　　知っていることとつなげて読もう　「おにごっこ」
2. 本時の学習指導

（１）目標

〇本文が二つの問いから成り立っていることに気づき、それに対応する文を抜き出すことで文章の構造を理解することができる。

（２）評価規準（1時間の授業に即した具体的なもの）

|  |  |
| --- | --- |
| ア　国語への関心・意欲・態度 | エ　読む能力 |
| ①問いやそれに対応する文を見つけようとしている。 | ①文中から問いとそれに対応する文を抜き出している。 |

（３）展開（〇は指導上の留意点 -----内は評価を表す）

|  |  |
| --- | --- |
| 前時の学習内容 | 〇形式段落分けをする。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 学習内容 | 指導・援助と評価の創意工夫 | 時間 |
| １　前時の授業の内容の復習をする。  ２　本時の課題学習をつかむ。  どうすればといと答えを見つけられるだろう。  ３　問いを見つける  ①どんな遊び方があるのでしょう。  ②なぜ、そのような遊びがあるのでしょう。   * どうして * どのように * どんな * ～ますか。 * ～だろうか。   ４　問いに対応する文章を抜き出す。  ５　問いやその答えが示してある文章の特徴を話し合い発表する。   * 場所 * 表現   ６　本時のまとめを行う。 | * 前時の内容 * 本時の学習課題 * 問いの表現 * 答えの表現 * 問いやその答えの特徴   ・本時のまとめ | ○黒板に題を書く。  〇児童に質問を投げかけながら前時の振り返りをすることで、児童がスムーズに本時の授業内容に入れるようにする。  〇学習の課題を示し、声に出して読むことで、ねらいを明確化する。  〇二つの問いから成り立つことを示し、その文章が問いであると思った理由を考えることで問いを示す特有の表現に気付けるようにする。  〇問いや答えを示す特有の言葉の例をいくつか挙げることで、様々な表現方法が身に付くようにする。  〇一つ目の問いに対する答えに傍線を、二つ目の問いに対する答えに波線を引くことで、二つの質問に対する答えが合わせて示されていることを目視できるようにする。  〇問いと答えを対応できるように問いかけにも傍線と波線を引くようにする。   |  | | --- | | ◎評価アの①問いやそれに対応する文を見つけようとしている。　　（態度の考察） |   ＜手立て＞   * 教師の呼びかけにより、問いとそれに対する文を見つけようとする。 * 問いやそれに対応する文を見つけようとし、さらにその理由も考えようとする。  |  | | --- | | ◎評価イの①文中から問いとそれに対応する文を抜き出している。　（ノートの記述） |   ＜手立て＞   * なかなか見つけられない児童は、教師と一緒に特有の表現に注目しながら抜き出すことができる。 * 抜き出すことができた児童は、なぜその文章だと思ったのか理由も考えて発表することができる。   〇机間指導をしながら児童の考えた答えを確認しておくことで、発表の際に回答の内容が満遍なく出るようにしておく。  〇授業中に出てきた児童の考えを用いて、本時の振り返りをし、学習課題が達成できたことを確認する。  〇次時の授業の内容に触れ、児童が次の授業への見通し、期待感を持てるようにする。 | 3’  3’  12’  12’  12’  3’ |

|  |  |
| --- | --- |
| 次時の学習内容 | 〇自分が考えた遊びに対応させる。 |

1. 板書計画

一月十九日

　「おにごっこ」

〈とい〉

１．どんなあそび方があるでしょう。

２．なぜ、そのようなあそび方をするのでしょう。

〈答え〉

１．あそび方

　　・てつぼうよりむこうに～

　　・じめんにかいた丸の中～

　　・木にさわっていれば～

２．りゆう

　　・にげてはいけないところをきめることで～

　　・このようにきめることで～

　　・そして、つかれた人も、

といと答えを見つけよう。

とい→はじめにあることが多い

答え→中にあることが多い

1. 備考　在籍児童数35名